

工事説明書

(第3版)

降雪センサ スノーハンター HBC-S4

本書は、降雪センサを正しくお使いいただくために、必要な事項を記載しています。

本書『警告』『注意』その他記載事項に反した工事及び使用方法をした場合、または降雪センサ以外に原因がある調査・修理依頼については有償で点検料をいただくことになりますので、かならずお読み下さい。

安全上のご注意・・・必ずお守り下さい

ご使用される方や他の人々への危害、財産への損害を未然に防止するために必ずお守りいただきたい事項を次のように表示しています。

	警告	この表示を守らずに誤った使い方をすると人が死亡、又は、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意	この表示を守らずに誤った使い方をすると人が傷害を負う可能性、又は、物的損害が発生する可能性が想定される内容を示しています。

いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守って下さい。

工事完了時には必ず動作点検をおこない、お客様に取扱説明をした上でお引き渡し下さい。



北海バネ株式会社

●●●●● もくじ ●●●●●

安全上のご注意	1
1. 製品概要	2
2. 梱包内容	2
3. 名称と働き	3
4. センサ部取り付け工事	5
5. 制御部取り付け工事	9
6. 地温センサ取り付け工事	1 2
7. ヒーティングリモコン取り付け工事	1 2
8. 動作点検方法	1 3
9. 使用方法	1 5
1 0. 自動運転モード	1 6
1 1. 制御部各設定	1 8
1 2. センサの検出動作について	2 0
1 3. 製品保証	2 0
1 4. 保証サービス	2 1
1 5. 故障かな？と思ったら	2 1
1 6. 仕様	2 3

安全上のご注意



警告

- 設定や調整を行う際には、感電の恐れがあるため配線部や他の電子部品には手を触れないで下さい。
- 製品を電源電圧仕様以外の電源で使用しないで下さい。火災、感電の原因となります。
- 濡れた手で制御部の操作は絶対に行わないで下さい。感電の恐れがあります。
- 故障、破損したら使用しないで下さい。不完全な修理や改造は火災や感電の原因となります。
- 制御部は屋内専用です。水が制御部内に侵入するような場所には設置しないで下さい。火災、感電の原因となります。
- 機器の分解、改造は行わないで下さい。火災、感電の原因となります。
- センサと融雪システムへの配線は正しく行って下さい。間違っていると機器の破損原因となり大変危険です。



注意

- 破損した場合は電源を切り、使用を中止して下さい。
そのまま使用すると火災、感電の原因となります。

他の注意事項

- 冬期間のみ使用して下さい。
- 夏期間や使用しない場合は制御部の電源スイッチを「切」にして下さい。
- センサ部検出面の汚れを落とす場合には、水で洗い流し柔らかい布で軽く拭き取って下さい。
- センサ部検出面は以下の点に注意して下さい。降雪検出に悪影響がでます。
 - ・ 熱湯をかけたりしないで下さい。
 - ・ 洗剤でセンサ部検出面を洗ったり、こすったりしないで下さい。
 - ・ 検出面に傷を付けたり、油、ペンキ、セメントなどを付着させないで下さい。
- 異常が発生した場合は最寄りの工事店、または販売店へご連絡下さい。

1. 製品概要

- ・スノーハンター HBC-S4 は外気温度と水分により降雪を検出する融雪システム駆動用降雪センサです。
- ・オプションの地温センサを使用すると凍結防止運転や予熱運転が可能です。
- ・少量の降雪時には運転を行わない省エネ制御が可能です。

2. 梱包内容

- ・センサ部 1 本
- ・制御部 1 台
- ・付属品
 - ・取扱説明書 1 部
 - ・工事説明書 1 部
 - ・取付タッピングネジ 4 × 3 0 5 本 (センサ部用 2 本、制御部用 3 本)
 - ・制御部組立ネジ 4 × 1 6 2 本
 - ・予備ヒューズ 0. 3 A 降雪センサ電源側 1 本
5 A 負荷側 1 本
 - ・センサ取付部カバー 1 組

3. 名称と働き

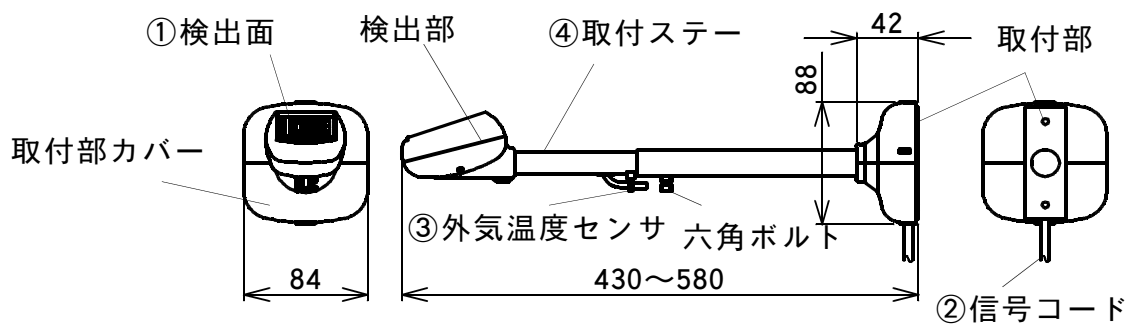


図1 センサ部

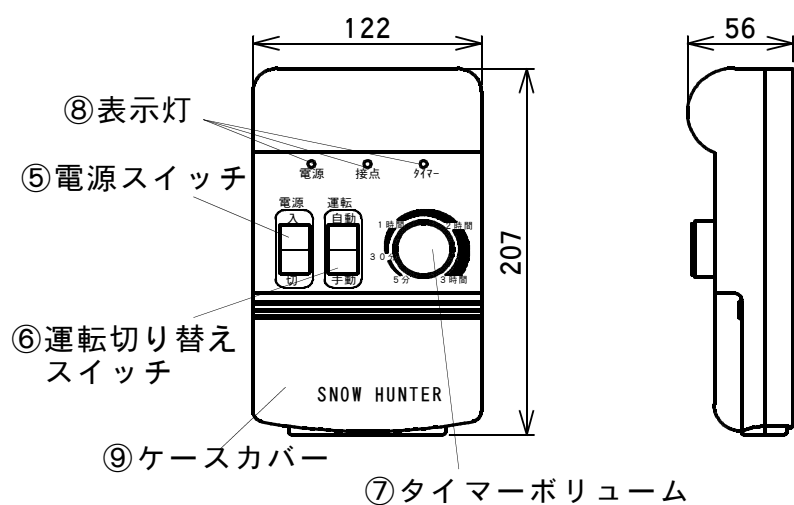


図2 制御部

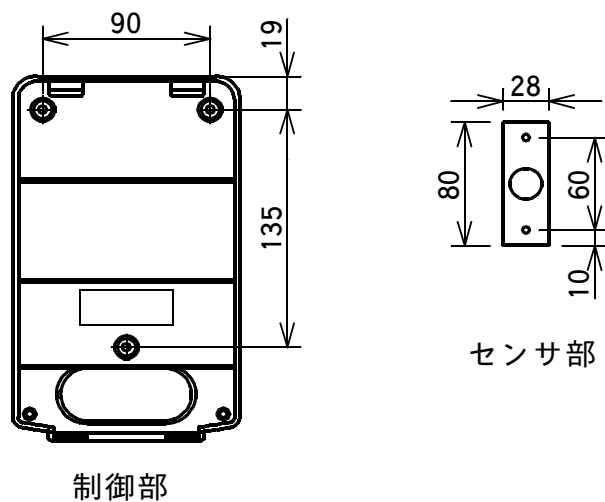


図3 取付寸法

▶ センサ部

① 検出面

降雪時に捕捉した雪を検出部内部のヒーターで融かして、水分を検出します。

② 信号コード

検出部と制御部を接続する 5 m の 6 心コードです。

③ 外気温度センサ

外気温度を検出して降雪判定の基準としています。

④ 取付ステー

検出部を固定するためのものです。取付場所に合わせてセンサ部長さが調節できます。

▶ 制御部

⑤ 電源スイッチ

電源の「入」 ↔ 「切」を行います。

降雪センサをご使用されるときは、スイッチを「入」側に押し切り替えて下さい。

⑥ 運転切り替えスイッチ

「自動」運転と「手動」運転の切り替えを行います。ご使用になる運転モード側にスイッチを押し切り替えて下さい。

⑦ タイマーボリューム

遅延タイマー動作時間を設定します。

タイマー時間を設定する場合は、つまみの線を設定したい時間に合わせて下さい。

※遅延タイマーは降雪検出終了後に融雪運転を引き続き行うためのタイマーです。

降雪検出終了後に遅延タイマー動作に切り替わり、タイマーボリュームで設定した時間融雪運転を延長して、雪が融け残るのを防止します。

遅延タイマー動作中に再度降雪を検出するとタイマーはリセットされます。

⑧ 表示灯

電源（緑）・・・・・・電源スイッチが「入」になっているとき点灯します。

接点（赤）・・・・・・融雪システム運転時に点灯します。

タイマー（橙）・・・・遅延タイマー動作時に点灯します。

（自動運転モード時のみ有効）

⑨ ケースカバー

コード配線工事、温度設定などを行う際にカバーを外します。
感電防止のため通常はカバーを取り付けておいて下さい。

4. センサ部取り付け工事

4-1. コード延長

センサ部信号コード（5 m）が短い場合は延長することが可能です。

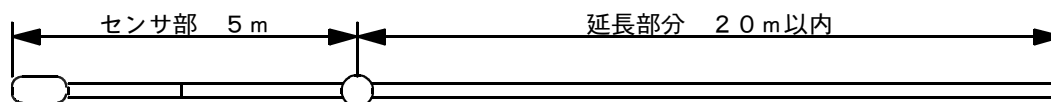
延長する場合は下記事項を必ず守って下さい。

① 延長するコードは表 1 のコードをご使用下さい。

表 1

計装用ケーブル	I C V V	6 心×0.5 mm ²
キャブタイヤコード	V C T F	6 心×0.5 mm ²

② センサ部信号コードの総長さは センサ部 5 m + 延長部分 2.0 m = 2.5 m までです。



③ コード中継部は線間の絶縁不良やショートがおこらないように工事して下さい。

また、コードをCD管などに通すときは管内に水が侵入しないよう工事して下さい。

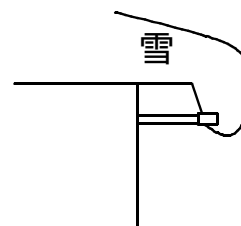
注意 延長する場合の注意事項は必ず守って下さい。守らない場合は誤作動の原因となります。

4-2. 設置場所

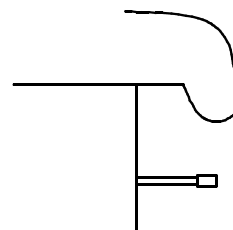
センサ部は検出面に雪が付着することで降雪を検出します。降雪時に検出面に雪が付着しやすい場所に設置して下さい。

下記のような場所は誤作動の原因となりますので設置しないで下さい。

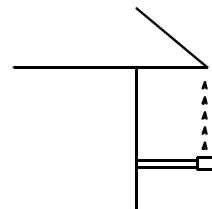
① 屋根に近すぎる場所（検出面に雪がかぶり、降雪なしでも作動する）



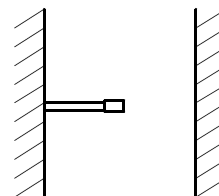
- ②屋根の雪が張り出すことが考えられるところの下（降雪時検出しにくい）



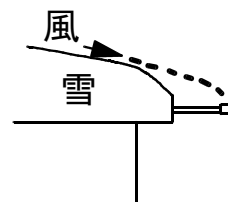
- ③雨だれや異物がかかる場所
つららや落雪が生じる場所
雪に埋もれたり、浸水が生じる場所（降雪なしでも作動する）



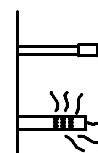
- ④風を受ける方向が制限される隣接している建物との間が狭い場所
風雪の方向によっては感度が低下する）



- ⑤雪面に近い場所（降雪がなくても風で雪がセンサに付着、作動する）



- ⑥排気筒付近（外気温度センサが誤作動する）



4-3. 取り付け

- ①センサ部信号コードを取付面より貫通させて使用するときは、図4のようにコードをパイプロから引き出して下さい。
- ②センサ部を付属のタッピングネジなどで壁面などに固定して下さい。
- ③センサ部の長さは六角ボルトにより長さ調整ができます。（430mm ～ 580mm）
- ④六角ボルトで固定する際に図5のように検出面が真上に向くように（検出面が横に傾かないように）固定して下さい。
- ⑤センサ部を取り付け後、図6のように取付部カバーを取り付けて下さい。
カバーを外す場合は、取り外し穴にドライバーなどを差し込んで軽く押して外して下さい。

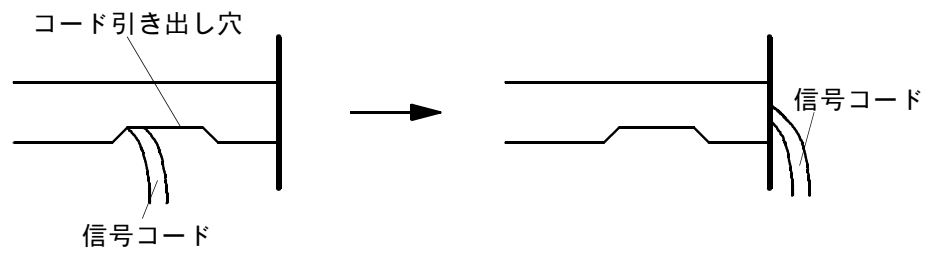


図4 信号コードの引き出し

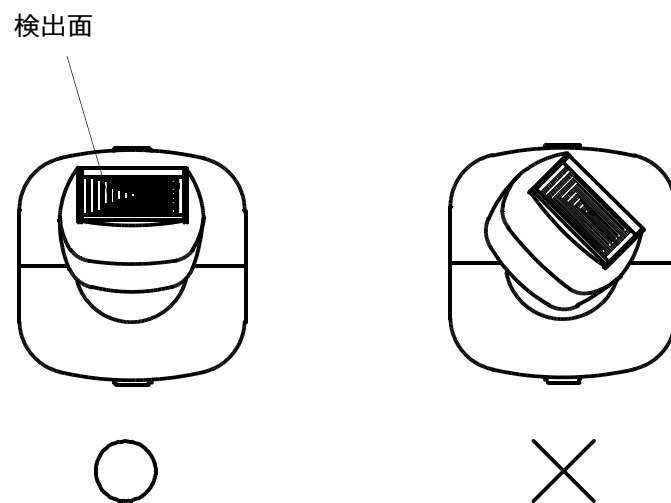


図5 検出面の固定

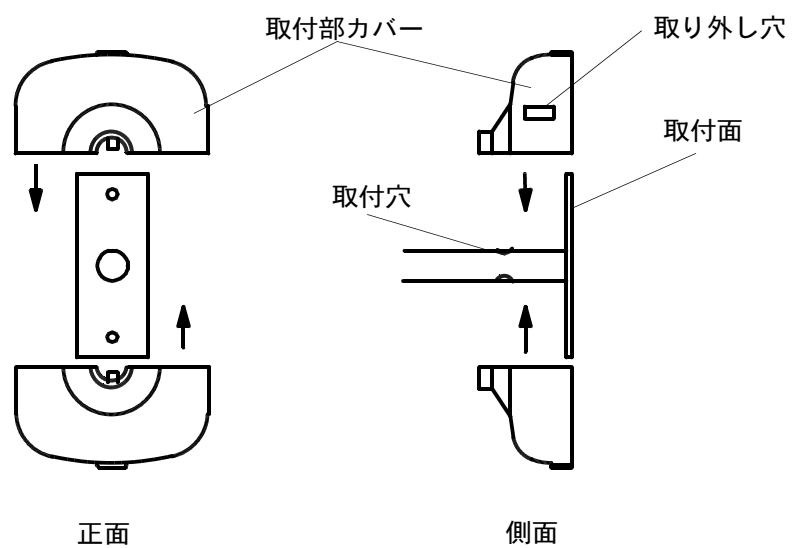
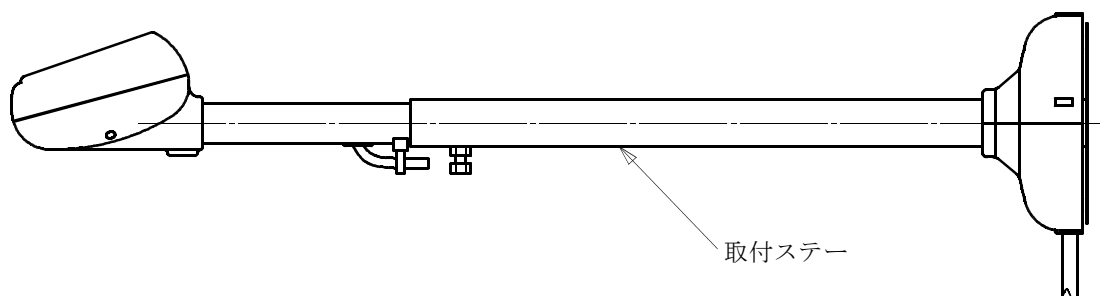


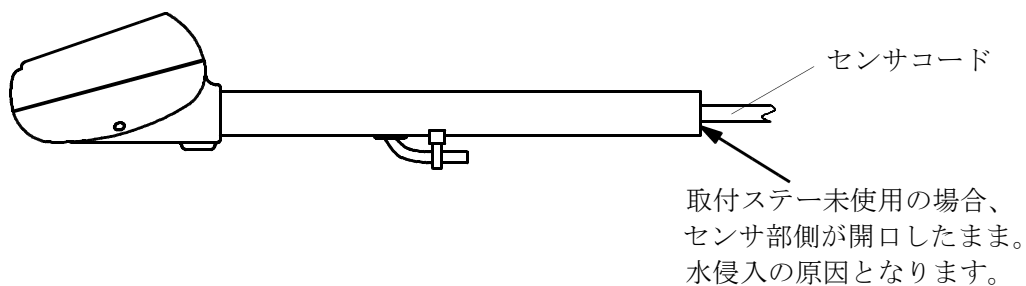
図6 取付部カバーの取り付け

センサ部設置時の注意事項

○センサの取付ステーを外した状態での設置・ご利用は、誤作動や故障の原因になり保証しかねますので、ご注意下さい。



- ・センサ内部に水が入り込み、誤作動の原因となります。
- ・尚、取付環境の都合により、やむを得ず取付ステーを外してご利用される場合は、本体内部に水はいらないなどの処置を行って下さい。（原則、当社取付ステーをご利用されない場合の故障・不具合は保証対象外となります。）



5. 制御部取り付け工事

5-1. 制御部設置

注意 制御部は屋内向けに作られています。ボイラーハウス、制御盤、車庫、室内などに設置して、雨だれなどのかかるところには絶対に設置しないでください。故障の原因となります。

- ①制御部は3つのパーツ（A、B、C）からなっていますので、それぞれに分けて下さい。
Aの裏蓋からBの本体を外す場合は図7の矢印の方向にBを押し上げて下さい。Bの本体からCのカバーを外す場合は、図の取り外し穴にドライバーなどを差し込んで外して下さい。

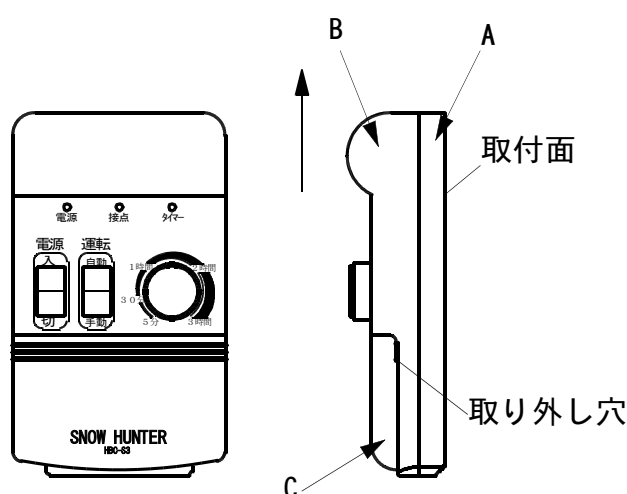


図7 制御部ケース

- ②最初にAの裏蓋を取り付けます。図8の左図に示した3カ所の制御部取付ネジ穴に付属のタッピングネジなどで壁に取り付けます。
③次にBの本体を裏蓋に取付、図8の右図に示した2カ所のネジ取付部に付属タッピングネジ（4×16）で固定します。
④配線や各調整が終わりましたらCのカバーを取り付けて下さい。

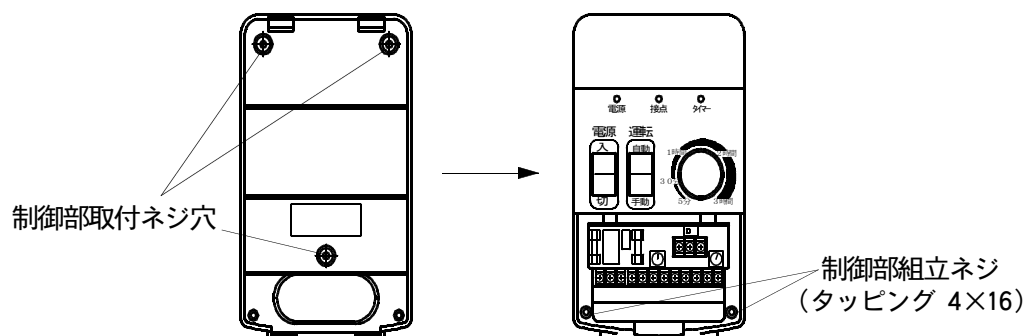


図8 制御部取付

5-2. 配線工事



注意

- 製品の電源仕様以外の電源は使用しないで下さい。故障、火災の原因となります
- 電源を電源端子以外に接続しないで下さい。故障、火災の原因となります。
- 電源端子への配線には適正なコードを使用し、絶縁不良などによる漏電が生じないように十分に注意して工事して下さい。不適正なコードを使用したり、漏電が生じた場合には火災の原因となります。
- ケース内部の配線を行う際は、電源を切って行って下さい。電源を切らないで行うと感電する恐れがあります。
- 配線を間違えると降雪センサの動作異常や接続する機器の故障原因となります。接続するロードヒーティングシステムの取扱説明書を十分にお読み下さい。
- ボイラー側の接続でご不明な点はボイラーメーカーにお問い合わせ下さい。

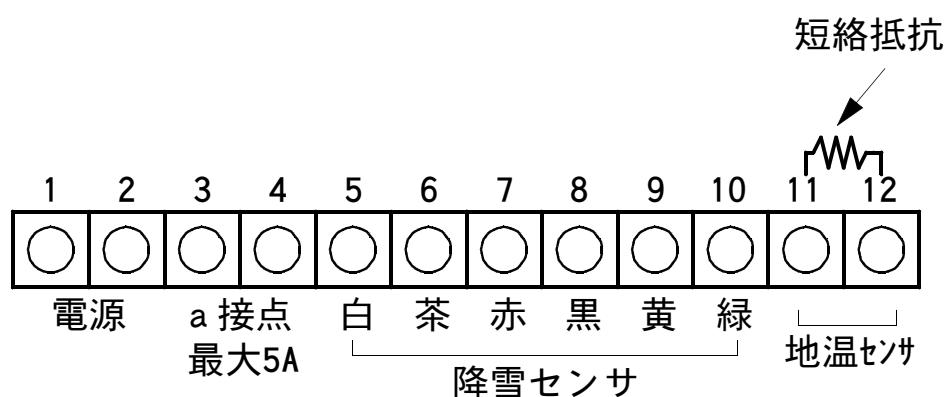


図 端子台

①電源

AC100V（AC200V仕様はAC200V）を電源端子に接続して下さい。

②降雪センサ

センサ部信号コードを端子台の指定色に合わせて接続して下さい。

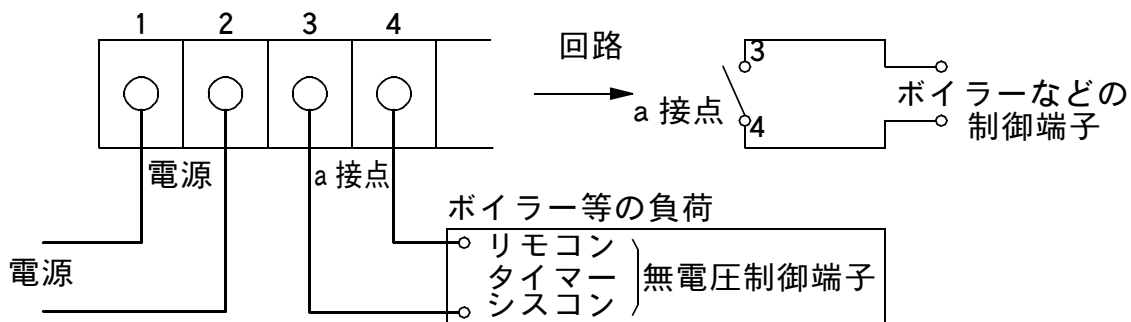
③地温センサ

オプションの地温センサを取り付ける場合は、端子台の短絡抵抗（10KΩ）を外して白・黒の線を接続して下さい。接続の色指定はありません。

④ a 接点

本センサと融雪システムをつなぐ端子で、出力は無電圧のリレー接点です。
融雪システムによって下記AとBの2種類接続方法があります。

A. 無電圧接点として使用する場合

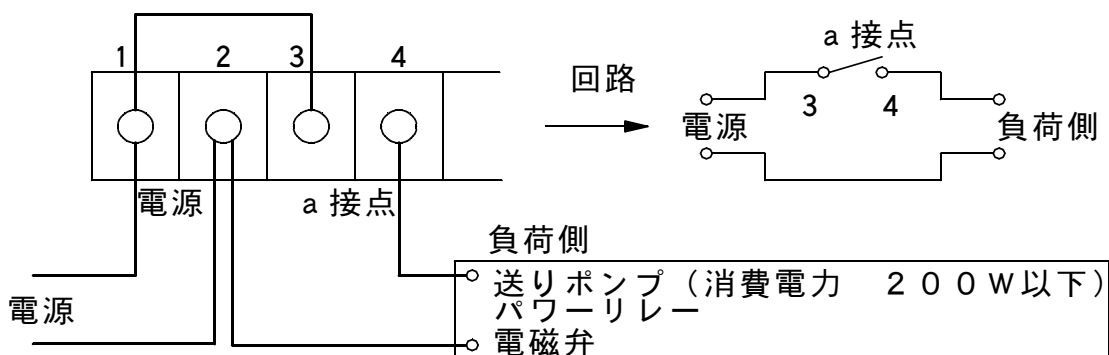


B. 電源供給型として使用する場合



注意

ボイラーの制御回路端子など本来は「A」の方式で接続するところへ「B」電源供給型で接続すると、ボイラー等の負荷側が破損し故障の原因となります。

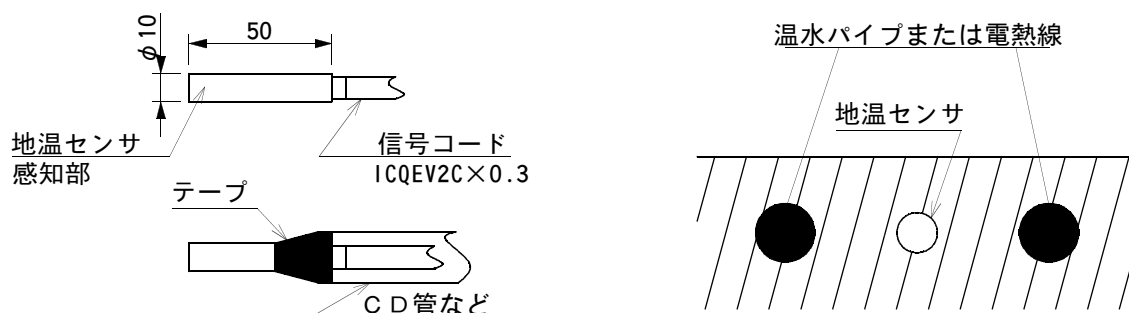


下記の場合はパワーリレー、電磁弁などの接点を使用して下さい。

- ・複数台のボイラー接続
- ・ボイラーと他の負荷を同時に制御
- ・消費電力200W以上のポンプなどを制御
- ・電気式ロードヒーティングを制御

6. 地温センサ（オプション）取り付け工事

- ①地温センサは下図のように並走する発熱線や温水パイプなどの中間に設置して下さい。
- ②地温センサの信号コードはCD管などで保護してから工事を行って下さい。また、CD管とセンサ部は図のようにテープなどで固定して下さい。
- ③地温センサはできるだけ地表面の近くに設置して下さい。



注意事項

- 地温センサの信号コードは、架橋ポリエチレン線を使用していますが、アスファルト舗装時の熱による劣化防止のため、CD管などで必ず保護して下さい。保護しない場合は断線など故障の原因となります。
- 地温センサは 1.5℃以下 でON動作するように設計されています。発熱線や温水パイプに近すぎると制御が利かなくなりますので、十分注意して設置して下さい。
- 地温センサの信号コードは必要に応じて短くすることはできますが、延長は水分による絶縁不良や断線の原因となりますので、絶対に行わないで下さい。但し、屋内での中継による延長はセンサコード10m＋延長10mまでできます。

7. ヒーティングリモコン（オプション）取り付け工事

- ・本降雪センサにヒーティングリモコンを取り付ける際は、ヒーティングリモコンに添付している取扱説明書をお読みにになり取り付けて下さい。
- ・本書が添付してある降雪センサ（HBC－S 4）には下記の4種類のヒーティングリモコンを接続することができます。

HBC－HA	HBC－HB
HBC－H 2 A	HBC－H 2 B

- ・本機に設けてあるリモコン用端子台には下記のリモコンが接続できます。

HBC－H 2 A	HBC－H 2 B
-----------	-----------

- ・HBC－HA、HBC－HBタイプはリモコン端子台へ接続できませんので、ご注意下さい。

8. 動作点検方法

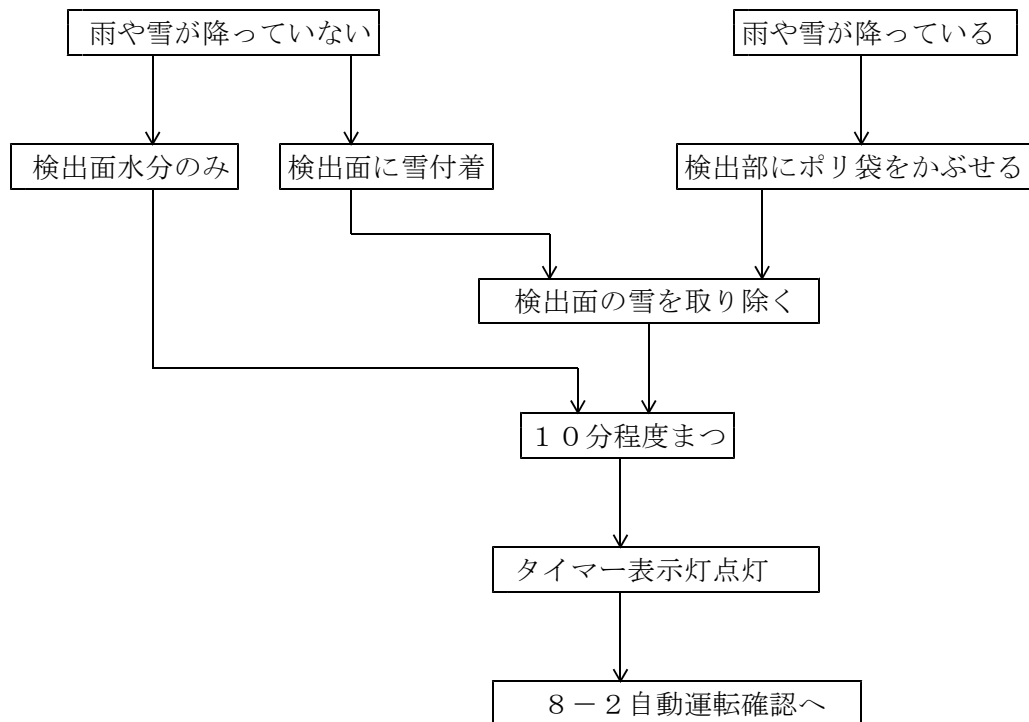
動作点検は降雪のない時期でも可能です。工事終了後、配線が正しく接続されていることを確認して、融雪システムが降雪センサによって運転するようにセットしてから、動作点検をして下さい。

8-1. 自動運転点検の準備

- ①センサ部信号コードの茶色を制御部端子台から外す。
- ②タイマーボリュームを「5分」にセット。
- ③端子台上の動作切り替えスイッチを「OR」側にセット。
- ④オンディレータイマー時間設定を「0」にセット。
- ⑤制御部運転切り替えスイッチを「自動」に、電源スイッチを「入」にして下さい。
 - 表示灯点灯、融雪運転あり
 - － 表示灯消灯 融雪運転なし

センサ部検出面	表 示 灯		融雪運転	
	電 源	接 点		
A 水分なし	○	－	－	→8-2へ
B 水分あり	○	○	○	→⑤へ

- ⑤センサ検出面が濡れていますので、下記の処置をお願いします。



8-2. 自動運転確認

雨や雪が降っている場合は、センサにポリ袋などをかぶせたままで下記の作業を行って表示灯やシステムの融雪動作を確認して下さい。

①電源を「切」にして、タイマー動作を解除する。

②制御部運転切り替えスイッチを「自動」に、電源スイッチを再度「入」にして下さい。

表 示 灯			融雪運転	判 定
電 源	接 点	タイマー		
○	—	—	—	合・否

○ 表示灯点灯 融雪運転開始又は運転継続

— 表示灯消灯 融雪運転停止

③センサ検出面を指で触る 又は 検出面に水分をつける。

○	○	—	○	合・否
---	---	---	---	-----

④指を検出面から離す 又は 水分が乾燥する。

○	○	○	○	合・否
---	---	---	---	-----

⑤タイマー表示灯が点灯してから約5分後。

○	—	—	—	合・否
---	---	---	---	-----

8-3. 手動運転確認

①制御部運転切り替えスイッチを「手動」にする。

○	○	—	○	合・否
---	---	---	---	-----

②電源スイッチを「切」にする。

—	—	—	—	合・否
---	---	---	---	-----

8-4. 地温センサの確認

- ①電源スイッチを「入」、運転切り替えスイッチを「自動」にする。
- ②地温センサ信号コードを端子台に接続した状態で

地温センサ端子間の電圧	DC2V 以下	合・否
-------------	---------	-----

- ③地温センサ信号コードを端子台から外して

地温センサ信号コード（白－黒）間抵抗値	5K Ω 以上	合・否
---------------------	---------	-----

8-5. 自動・手動運転点検後の処理

- ①センサにポリ袋等をかぶせた場合には取り除いて下さい。
- ②冬期間でない場合には電源スイッチを「切」にして下さい。
- ③点検開始時に外したセンサ部信号コード（茶）を端子台に配線して下さい。
- ④地温センサ（オプション）の信号コードを外している場合には、配線して下さい。

9. 使用方法

9-1. 自動運転モード

降雪、又は、降雪と地中温度を自動的に検出して融雪システムを制御します。
通常は自動運転に設定しておきます。

※ 操作方法 ※

制御部の電源スイッチを「入」、運転切り替えスイッチを「自動」にして下さい。

- ・タイマーボリュームの時間設定は融雪システムにより異なりますが、最初は30分から1時間程度にして、融け具合をみて必要に応じて設定し直して下さい。
- ・降雪センサの動きと表示灯の関係は「10. 自動運転モード」をご覧ください。

9-2. 手動運転モード

降雪の有無に関係なく融雪システムを連続運転します。
融雪する場所に雪が積もった場合などに使用します。

※ 操作方法 ※

- ・制御部の電源スイッチを「入」、運転切り替えスイッチを「手動」にして下さい。
 - ・運転を停止する場合は、電源スイッチを「切」にして下さい。
その後、運転切り替えスイッチを「自動」にして再度、電源スイッチを「入」にして下さい。
- 手動運転モード時は遅延タイマーによる停止はできません。

10. 自動運転モード

自動運転モードを選択したときの動作は以下の3種類があります。

温度およびタイマー時間の設定はP17「11. 制御部各設定」をご覧ください。

10-1. 降雪センサのみ使用

①外気温度が設定温度（出荷時2℃）より低いときに、水分を検出すると降雪があったと判断して融雪システムを運転させます。

オンディレータイマー設定時間を0以外に設定している場合は、タイマー時間水分を連続検出したのち、降雪ありと判断します。

②その後、降雪を検出しなくなると遅延タイマー動作に切り替わり、タイマーボリュームで設定した時間（出荷時5分）運転して、停止します。

遅延タイマー動作時に再度降雪を検出すると、遅延タイマー動作は解除されます。

遅延タイマー動作時はオンディレータイマーは働きませんので、オンディレータイマー設定時間と関係なく降雪があるとすぐ遅延タイマーは解除されます。

制御動作と表示灯の関係は下表の通りです。

	表示灯			融雪運転
	電源	接点	タイマー	
1) 降雪がないとき	○	—	—	—
2) 降雪を検出し融雪運転中	○	○	—	○
3) 降雪検出が終了して遅延タイマー動作	○	○	○	○
4) 遅延タイマー終了	○	—	—	—

○：表示灯 点灯、 融雪運転 運転

—：表示灯 消灯、 融雪運転 停止

10-2. 降雪センサと地温センサを使用したとき・・・OR（オア）動作選択

この制御は降雪を検出したとき又は、地中温度が設定温度より低くなったときにシステムを運転させます。

地温センサの利用により、融雪面の温度を一定に保つ予熱運転や凍結防止運転が行えます。

予熱運転・・・路面が暖まるのに時間がかかる融雪システムの場合、予め路面を一定温度以上にしておくことで融雪時間を短くすることができます。

凍結防止運転・・・路面を一定温度以上にしておくことで路面凍結が生じないようにします。

1) 降雪検出による動作

制御動作と表示灯の関係は「10-1」の表と同じです。

2) 地中温度による動作

- ①地温センサの温度感知部が埋設されている部分の温度が設定温度（出荷時 5℃）より低くなると、融雪システムの運転を開始します。
- ②システムの運転開始後、地中温度が高くなり設定温度よりも 3℃高くなると運転を停止します。（地中温度設定 5℃のとき 停止温度は 8℃）

制御動作と表示灯の関係は下表の通りです。

	表示灯			融雪運転
	電源	接点	タイマー	
1) 待機しているとき	○	—	—	—
2) 地中温度が設定より低くなったとき	○	○	—	○
3) 地中温度が高くなったとき	○	—	—	—

10-3. 降雪センサと地温センサを使用したとき・・・AND（アンド）動作選択

この制御は降雪検出時に、地中温度が設定温度よりも低い状態の時にシステムを運転させます。融雪中に路面温度が必要以上に高くなるのを防止します。

- ①降雪検出時に地中温度が設定温度よりも低いと、融雪システムの運転を開始します。
- ②融雪システム運転開始後、地中温度が高くなり設定温度よりも 3℃高くなると、降雪の有無に関係なく停止します。

制御動作と表示灯の関係は下表の通りです。

	表示灯			融雪運転
	電源	接点	タイマー	
1) 待機しているとき	○	—	—	—
2) 降雪検出、地中温度が設定以下のとき	○	○	—	○
3) 地中温度が高くなったとき	○	—	—	—

1 1. 制御部各設定

- ・ 数値設定は外気温度、地中温度、オンディレータイマー時間、遅延タイマー時間の4点について行えます。
- ・ 地温センサを使用したときの動作（OR $\longleftrightarrow$ AND）を選択できます。

①外気温度設定 出荷時 2℃ 設定範囲 0℃～7℃

- ・・・降雪の有無を判定する基準となります。
北海道（札幌）を基準として出荷時の温度を設定しています。
設置する地域に合わせて調整して下さい。

②地中温度設定 出荷時 5℃ 設定範囲 -5℃～15℃

- ・・・地温センサを使用する際に調整します。
OR動作かAND動作によって異なります。両動作の違いは「10. 自動運転モード」をご覧ください。
又、設置場所やセンサの埋設深さ、路盤の種類により異なります。
融雪状態に合わせて調整して下さい。

OR動作→凍結防止運転を行う場合は、地表面が0℃以上になるように設定して下さい。
予熱運転を行う場合は、凍結防止運転の設定温度と同じか**低めに設定**して下さい。

AND動作→降雪時の融雪システム運転開始温度、及び融雪システムを停止する温度になりますので、**高めに設定**して下さい。温度設定が低いと降雪時に作動しなかったり、雪が融け残ったりする場合があります。

③オンディレータイマー時間設定 出荷時 0 設定範囲 0～30分

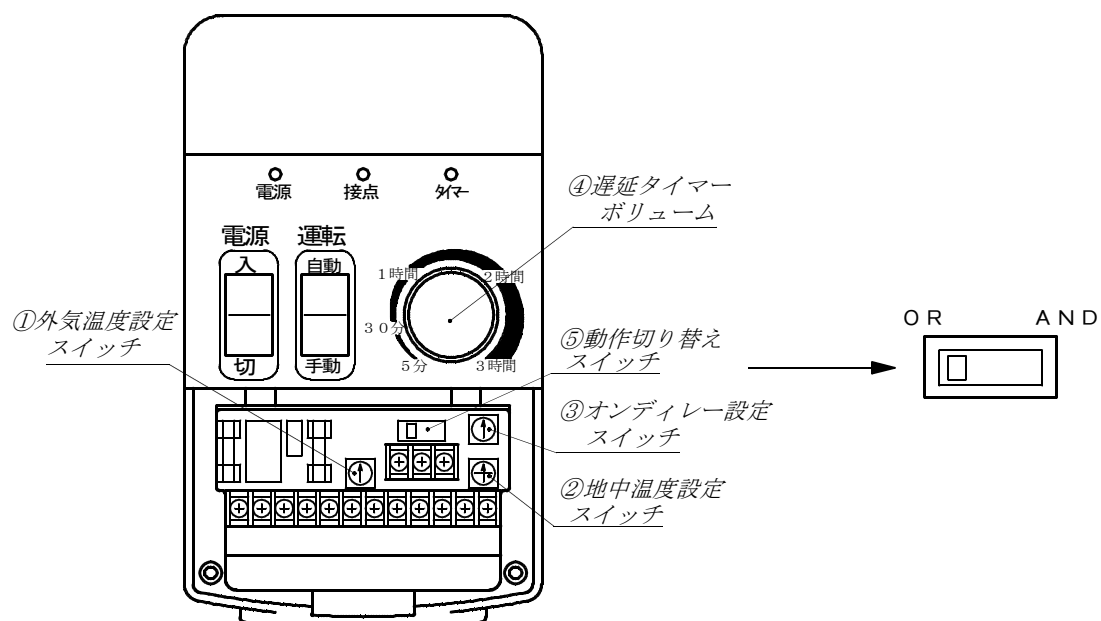
- ・・・降雪検出時間を設定します。
設定した時間降雪を検出してから融雪システムの運転を開始します。
従いまして、設定時間未満の降雪では運転しません。

④遅延タイマー時間設定 出荷時 5分 設定範囲 5分～3時間

- ・・・地温センサを使用しないとき、又は地温センサを使用してOR動作のときに働きます。30分～1時間程度に設定しておき、融雪状態を確認して再調整を行って下さい。

⑤動作切り替えスイッチ 出荷時 OR

- ・・・「OR」運転と「AND」運転の切り替えを行います。
地温センサを使用しないときは必ず「OR」側にして下さい。

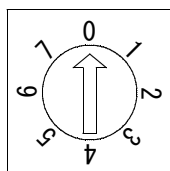


調整ボリューム・スイッチ配置図

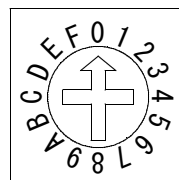


警告

調整を行う際には、感電の恐れがあるために配線部分や他の電子部品に手を触れないようにして下さい。



外気温度設定スイッチ



地中温度設定スイッチ

オンディレータイマー時間設定スイッチ

各設定を行う場合は、下表を参考にスイッチの矢印を設定したい番号に合わせて下さい。

スイッチ位置	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
外気温度 (°C)	0	1	2	3	4	5	6	7								
地中温度 (°C)	-5	-3	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	11	13	15
オンディレー (分)	0	0.1	1	5	10	15	20	30								

1 2. センサの検出動作について

本センサは気象条件や設置条件により下記に示すような現象になる場合があります。

- ①外気温度設定（出荷時 2℃）以下で検出面に降雪以外の水分が付着すると降雪有りと判定し動作します。（例 降雨、雨だれ）
- ②外気温度設定以上の気温でセンサ部検出面に水分が付着し、その後、検出面が濡れたままで気温が設定温度以下に下がった場合は動作状態になります。
- ③融雪不要な小雪でも検出面上が濡れれば動作する場合があります。
- ④降雪中でも外気温度が設定温度以上になった場合には、遅延タイマー運転に切り替わります。
- ⑤外気温度の低い吹雪の時、検出面上で雪がはねて動作しない場合があります。
- ⑥外気温度の高い吹雪の時、検出面上部が氷結して動作しなくなる場合があります。
- ⑦設置環境によっては強力な電波、ノイズで動作状態になることがあります。

上記のような動作が発生した場合には、電源をスイッチ「切」にして動作を停止するか、手動で融雪して下さい。

1 3. 製品保証

（1）保障内容

当社降雪センサ・地温センサ・ヒーティングリモコンに材料、または製造上の不具合が発生した場合、下記に示す保証期間と条件にしたがって無料修理（以下これを保証修理といいます）いたします。保証修理は部品の交換あるいは補修によりおこないます。

（2）保証期間

工事完了お引き渡し日から起算して1年間

（3）保証修理の受けかた

工事店または販売店へ連絡のうえ保証修理をお申し付け下さい。

（4）保証に適さない事項

保証期間内でも次の場合は有料となります。

- ①融雪用センサ以外に使用した場合
- ②工事に関する問題点、融雪システムに関する問題点
- ③製品の落下、破損、改造
- ④「1 2. センサの検出動作について」に記載されている項目による損失
- ⑤一般に認められている機能に影響がない傷
- ⑥地震、風水害、落雷など天災並びに事故、火災による故障または損傷

（5）保証期間経過後の修理については有料となります。

1 4. 保証サービス

- (1) 「1 2. センサの検出動作について」に記載されている項目による損失については保証外となります。
- (2) 出張サービスについて
- ①当社製品は保証期間内で異常が合った場合は、下記の処理をいたします。
- イ 札幌近郊のみ出張し製品交換いたします。
- ロ 札幌近郊以外は原則として出張は行わず、電話対応にて製品交換いたします。
- ②保証外による出張依頼
- 設置工事、配線ミス、他社製品の故障、融雪システムに問題などの製品保証（４）、（５）については出張費、技術料が有料となります。
- ③遠隔地への出張要請については保証期間内・外を問わず有料となります。
- (3) 返品修理
- 当社製品・部品または製品上の不具合以外での損害、改造が明らかになった場合には部品代、修理費は有料となります。

1 5. 故障かな？と思ったら

降雪があっても運転しない

- センサの電源スイッチが「切」になっていませんか。
 - 「入」にして下さい。
- 融雪システム側（ボイラー、制御盤など）のブレーカーまたはスイッチが「切」になっていませんか。
 - 「入」にして下さい。
- 動作切り替えスイッチが「AND」になっていませんか。
 - 地温センサを使用していない場合は「OR」に切り替えて下さい
 - 〃 使用している場合は、地温が設定温度より高いため運転してない可能性があります。運転させたい場合は切り替えスイッチを「OR」側に切り替えるか地中温度設定を高くして下さい。
- センサ部検出面に雪がのりにくい状態になっていませんか。
 - 本説明書「4. センサ部取り付け工事」に記載している悪い設置例が原因と考えられるときは、センサ設置場所の変更を検討して下さい。
- 融雪システム側でエラー表示が出ていませんか。
 - 融雪システム側のサービス部門にお問い合わせ下さい。
- センサ部信号コードを延長していませんか。
 - 延長工事部分が絶縁不良などになって降雪検出ができない状態になっている可能性があります。ご確認をお願いします。
- オンディレタイマー時間設定が「0」以外になっていませんか。
 - 降雪をオンディレタイマーで設定した時間連続検出しないと、運転しません。

○すぐに運転させたい場合は、オンディレータイマー時間設定を0にしてください。

●降雪がないのに運転する

●地温センサを使用していますか。

○地温が設定温度より低い状態です。運転させたくないときは設定温度を低くするか、動作切り替えスイッチを「AND」側に切り替えて下さい。

●検出面に雨だれなど水が検出面に付着していませんか。

○水がセンサ検出面につかないように取付ステーの長さを調整するか、センサ設置場所の移動をご検討下さい。

●融雪システム側が優先になっていませんか。

○融雪システム側の電源スイッチを「切」にしてセンサを利用するタイプのものは融雪システム側スイッチを「入」にすると、降雪センサに関係なく運転するものがあります。このような場合は融雪システム側スイッチを「切」にしてご使用下さい。

●センサ部信号コードを延長していませんか。

○延長工事部分が絶縁不良になっている可能性があります。ご確認をお願いします。

●雪が融けない

●「降雪があっても運転しない」の項を参照して下さい。

●遅延タイマー時間が短くないですか。

○タイマー時間を長くして下さい。

●雪が融けても停止しない

●「降雪がないのに運転する」の項を参考にして下さい。

●タイマー時間が長すぎませんか。

○タイマー時間を短くして下さい。

上記以外の症状や確認されても原因が不明な場合は、最寄りの工事点、販売店へご連絡下さい。

16. 仕様

型 式	HBC-S4 (制御部 屋内向け)
電 源 定 格	AC100V (50Hz,60Hz 共用)、200V 仕様の場合はAC200V
消 費 電 力	MAX7.5W
検 出 方 法	水分検出・外気温度検出・地中温度検出
運 転 モ ード	自動3要素 (水分・外気温度／地中温度) 自動2要素 (水分・外気温度) 手動
出 力 方 法	リレー無電圧接点 (1a 接点)
接 点 容 量	Max AC200V 5A 誘導負荷時 Max AC200V 2A
使 用 温 度	-20℃～40℃
外 気 温 度 設 定	0℃～7℃ (ロータリースイッチ設定式)
オンディレー	0～30分 (ロータリースイッチ設定式)
遅延タイマー	5分～3時間 (ボリューム設定式)
地 中 温 度 回 路	AND, OR スイッチ切り替え式
地 中 温 度 設 定	ON -5℃～15℃ (ロータリースイッチ設定式) OFF -2℃～18℃
表 示	電源供給時 : 緑色表示灯 点灯 接点出力時 : 赤色表示灯 点灯 遅延タイマー動作時 : 橙色表示灯 点灯
外 形 寸 法	水分検出部 : 56 (W) × 51 (H) × 77 (D) mm パイプステー : 長さ 430mm～580mm (水分検出部含む) 信号コード長 : 5m 制御部 : 122 (W) × 207 (H) × 56 (D) mm
重 量	センサ部 : 約700g 制御部 : 約700g 梱包時 : 約1.5kg
付 属 品	取扱説明書・工事説明書 各1部、取付ネジ5本、制御部組立ネジ2本、取付部カバー一式、予備ヒューズ0.3A、5A各1本
用 途	融雪システム駆動用

地温センサ (オプション)

型 式	HBC-T1
温度感知素子	サーミスタ
コード材質	架橋ポリエチレン
信号コード長	10m, 20m仕様の場合20m
使 用 温 度	-20℃～80℃

◎改良のため、仕様及び外観の一部を予告なく変更する場合がありますので、ご了承下さい。

北海バネ株式会社

技術的なことに関するお問い合わせ

本 社 小樽市銭函 2 丁目 5 4 番 8 号
電話 (0134) 62-7304 FAX (0134) 62-3025

販売に関するお問い合わせ

本社営業部 小樽市銭函 2 丁目 5 4 番 8 号
電話 (0134) 62-3716 FAX (0134) 62-3728
綾瀬工場 神奈川県綾瀬市吉岡東 2 丁目 3 番 2 3 号
電話 (0467) 77-4661 FAX (0467) 77-4638